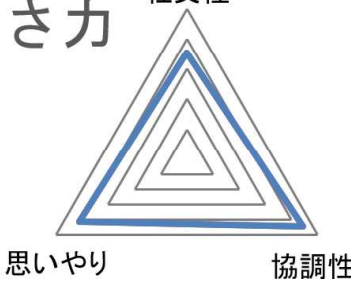




1 さ・ぬ・き力（非認知能力）に関する子供（36名）の実態

授業づくりの重点項目		
<p style="text-align: center;">さ力 社交性</p>  <p style="text-align: center;">思いやり 協調性</p> <p>さ力に関しては全体的に自覚度が高く、当番・係活動や実習生とのお別れ会などを実施する際にも、同じ当番や係の友達と仕事を分担し、協力しながらそれぞれの役割を果たそうとする姿が見られる。一方で、自分の意見に対する自信の無さからか、全体に向けて発言することに恥ずかしさを感じていたり、話し合うことに苦手意識があったりし、自分から進んで交流できていない様子が見られる。</p>	<p style="text-align: center;">ぬ力 目標への情熱</p>  <p style="text-align: center;">粘り強さ 忍耐力</p> <p>「目標への情熱」の自覚度が高く、普段の授業でも毎時間の学習課題や、単元のゴールを意識し、目標を達成しようとして取り組んでいる様子が見られる。一方で、「粘り強さ」の自覚度が低い。特に「何か失敗をしても、それをよりよくしようとしている」「問題や困ったことを解決するとき、他のやり方はないかなと考えている」という項目の自覚度が低い。普段の授業でも一つの考えをもった後、別の方法でも試してみようとは考えていない様子が見られる。</p>	<p style="text-align: center;">き力 自分を信じる力</p>  <p style="text-align: center;">回復力 自制心</p> <p>「自制心」の自覚度が高く、自分のすべきことや必要なことを考えながら授業に臨んでいることが分かる。一方で、「回：心配に思っていることでも最後には何とかなると思える」「信：自分に苦手なことや、できないことがあっても、あまり気にしない」といった項目の自覚度が低い。ペアや仲のよい友達とは交流できても、全体の場で発表することは苦手な子供もおり、苦手なことには消極的になったり、間違いを恐れたりする傾向がある。</p>

2 教科に関する子供の実態

- お話を読むのが好き（26名） まあまあ好き（6名）
- お話の音読をするのが好き（16名） まあまあ好き（8名）
- 友達と話し合うのが好き（15名） まあまあ好き（12名）
- 人物の様子を具体的に想像するために、自分ならどんなことを考えるか。（複数回答可）
 - ・どんな気持ちか（31名） ・どんな声・言い方をしているか（31名）
 - ・どんな表情か（26名） ・どんなことをしているか（18名）
 - ・誰が言ったことか（16名） ・今までにどんな出来事があったか（15名）

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…一つのことに集中し続けることが難しく、課題解決に進んで取り組んだり、自分から話合いに参加したりすることが難しいが、絵を描くのが得意で、人物の様子など絵で表現することができる。また、仲のよい友達が話しかけてくれると安心して意見を交流することができる。

第2学年東組 国語科学習指導案

「物語の世界を1人音読劇で表現しよう ～『お手紙』～」

学習指導者 岡根 平



1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

本単元では、アーノルド・ローベルの『ふたりは』シリーズの中から選んだ物語の登場人物の行動について具体的に想像したことを「1人音読劇」として表現し、お家の人に披露するという言語活動を設定する。物語を表情や動きなどをつけながら音読劇で表現するために、まず、共通教材『お手紙』で、場面の様子に着目し、どのような表情、口調、様子だったのかなどの観点で、登場人物の行動を具体的に想像していく経験を積む。その中で、想像したことやその理由を友達と交流し、登場人物の行動をより具体的に想像していく。例えば、『かえるくんは、まだからのぞきました』は、にこにこした顔だったと思うよ。早くがまくんを喜ばせたいから、まだかなと楽しみにしていたんじゃないかな」「なるほど。僕は不安な顔だと思ったよ。それより前に『かたつむりくんはまだやって来ません。』とあるから、どうしたんだろうと不安になったんじゃないかな」「確かに、そうかもね。最初は喜ばせたいという気持ちだったかもしれないけれど、何度もぞいているうちに、本当にお手紙が届くか不安な気持ちに変わっていったのかもね」「だったらかえるくんは、キョロキョロと周りを見ていたのかもしれないな」などと、同じ観点で多様に想像を広げたり、同じ叙述でも複数の観点から想像したりすることで、登場人物の行動をより具体的に想像し、それを音読劇の際の表情、口調、様子などに生かそうとしていく。このような学習を通して、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像するとお話の内容がよく分かり、自分の音読劇が上達したことを感じた子供たちは、自分の選んだ物語を読む時も、進んで登場人物のしたことや表情、口調、様子などを具体的に想像しながら読み、単元のゴールの1人音読劇に生かしていくだろう。

2 単元計画と働きかけの概要（本時 5/11）

次	学習の流れ	働きかけ
二	<p>① お家の人に物語の1人音読劇を披露するための計画を立てよう</p> <p>これまでに読み聞かせで知っている『ふたりは』シリーズから選んだ物語を、1人音読劇で披露するという言語活動を設定する。教師のモデルを見ることで、登場人物の行動を具体的に想像することが音読劇の上達につながることに気付き、学習計画を立てる。</p>	<p>見通し 情【かたつむりくんボード】</p> <p>②～⑩ 音読劇を披露するという単元のゴールと学習計画を示すことで、ゴールと本時とのつながりを意識できるようにする。㊦ゴールを意識して課題解決に取り組もうとする姿を教師が即時的に称賛する。</p>
	<p>② 『お手紙』を読んで物語の全体を知ろう</p> <p>物語を五つの場面に分け、それぞれの場面の様子や登場人物が何をしたのか、どのようなことを言ったのかなど、内容の大体を捉える。</p>	<p>行動 粘【人物想像タイム】③～⑩</p> <p>想像したことを観点ごとに色分けした付箋に書いて、拡大した本文に貼り、同じ観点や違う観点で考えた人と交流することで、より具体的に想像しやすい場を設定する。㊦多様に想像できたことのよさを感じている姿を教師が即時的に称賛する。</p>
	<p>③～⑦ ○場面を詳しく想像しながら読もう</p> <p>各場面の様子に着目し、「表情・声・動き・気持ち」の観点で、登場人物の行動を具体的に想像する。想像したこととその理由を友達と交流することで、登場人物の行動についてより具体的に想像し、それを実際に音読劇で表現する練習をする。</p>	<p>振り返り 信【今日のがんばりメーター】③～⑩ 学習課題を達成できたか、友達と交流できたかについて、自分の頑張りをメーターに示し、特に頑張ったことを記述する。㊦課題解決できたことへの自信を高めている姿を教師が即時的に称賛する。</p>
三	<p>⑧⑨⑩ 選んだ物語を詳しく想像しながら読もう</p> <p>今までの学習を生かして、自分の選んだ物語でも、まず、自分で登場人物の行動を具体的に想像する。次に、同じ物語を選んだ友達と交流し、より具体的に想像する。最後に、お家の人への音読劇披露に向けて、想像を生かして音読劇を練習する、という流れで学習する。</p>	
	<p>⑪ これまでの学習を振り返ろう</p> <p>お家の人へ音読を披露した際にももらったコメントや、自身の感想を交流した後、本単元で学んだ読み方を生かして、今後どんな本を読みたいかなど、これからの自分の読書生活について考える。</p>	

3 本時の学習

目 標	自分の音読劇に生かすために、3場面前半の様子に着目しながら、登場人物の表情、口調、様子などについて具体的に想像することができる。また、想像したことやその理由を友達と交流することで、より具体的に想像することができる。
--------	---

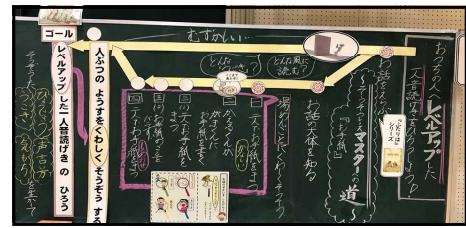
学習活動と働きかけ		主な子供の意識										
見 通 し	1 学習課題を設定する。 【目標への情熱】 【かたつむりくんボード】	<p>今は、1人音読劇をレベルアップさせるために、物語を詳しく読んでいるよ。</p> <p>前は2場面を詳しく想像したよ。広がった想像を音読劇にも生かせたね。</p> <p>今日は3場面を詳しく想像して、もっとレベルアップした音読劇にしたいな。</p>										
	3場めん前半をくわしくそうぞうしながら読もう											
行 動	2 登場人物の行動を具体的に想像する。 (1)個人で (2)グループで (3)全体で 【粘り強さ】 【人物想像タイム】	<p>登場人物の表情や、声、動き、気持ちのレンズで詳しく想像すると、登場人物のことがよく分かるね。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">『きみ、おきてさ…』のかえるくんの顔はにこにこだと思うよ。早く手紙を見せて喜んでもらいたかったんじゃないかな。</td> <td style="width: 25%;">僕は不安な顔をしていると思ったよ。手紙が届かなくて「かたつむりくんは何してるの」とドキドキしていたんじゃない。</td> <td style="width: 25%;">『今まで、だれも…』のがまくんは悲しい気持ちだと思わない。手紙なんて来るわけないって諦めていたんだよ。</td> <td style="width: 25%;">私は顔も声も怒っていると思ったよ。かえるくんがしつこく言ってくるから、イライラしていると思ったよ。</td> </tr> </table> <p>確かに。何回も見るとうちに不安になったのかもね。だったら、声も少しずつ小さくなっていくのかもね。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">やっぱりお手紙が来なくて不安だったと思うな。きっと窓の外をキョロキョロして探していたんだよ。</td> <td style="width: 25%;">本当だ。かえるくんは何度も言っているね。だったらすねて、壁の方を向いていたのかもね。</td> <td style="width: 25%;">悲しいから余計に、しつこいのかえるくんに怒ったんだよ。声も大きくなっていったと思うよ。</td> </tr> </table> <p>いろいろなレンズで想像したから、3場面の前半の様子が詳しくなったよ。新しく想像が広がったことを音読劇に生かしたいな。</p>				『きみ、おきてさ…』のかえるくんの顔はにこにこだと思うよ。早く手紙を見せて喜んでもらいたかったんじゃないかな。	僕は不安な顔をしていると思ったよ。手紙が届かなくて「かたつむりくんは何してるの」とドキドキしていたんじゃない。	『今まで、だれも…』のがまくんは悲しい気持ちだと思わない。手紙なんて来るわけないって諦めていたんだよ。	私は顔も声も怒っていると思ったよ。かえるくんがしつこく言ってくるから、イライラしていると思ったよ。	やっぱりお手紙が来なくて不安だったと思うな。きっと窓の外をキョロキョロして探していたんだよ。	本当だ。かえるくんは何度も言っているね。だったらすねて、壁の方を向いていたのかもね。	悲しいから余計に、しつこいのかえるくんに怒ったんだよ。声も大きくなっていったと思うよ。
	『きみ、おきてさ…』のかえるくんの顔はにこにこだと思うよ。早く手紙を見せて喜んでもらいたかったんじゃないかな。	僕は不安な顔をしていると思ったよ。手紙が届かなくて「かたつむりくんは何してるの」とドキドキしていたんじゃない。	『今まで、だれも…』のがまくんは悲しい気持ちだと思わない。手紙なんて来るわけないって諦めていたんだよ。	私は顔も声も怒っていると思ったよ。かえるくんがしつこく言ってくるから、イライラしていると思ったよ。								
	やっぱりお手紙が来なくて不安だったと思うな。きっと窓の外をキョロキョロして探していたんだよ。	本当だ。かえるくんは何度も言っているね。だったらすねて、壁の方を向いていたのかもね。	悲しいから余計に、しつこいのかえるくんに怒ったんだよ。声も大きくなっていったと思うよ。									
3 友達と交流したことを基に、物語を音読する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">僕は、かえるくんが不安でキョロキョロしていたという想像が面白いと思ったよ。その動きを付け足して読もう。</td> <td style="width: 50%;">私は、がまくんがだんだんイライラしてきたという考えに納得したよ。声もだんだん大きくしながら読もう。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">新しく想像したことを音読劇に生かすとレベルアップできたよ。</p>				僕は、かえるくんが不安でキョロキョロしていたという想像が面白いと思ったよ。その動きを付け足して読もう。	私は、がまくんがだんだんイライラしてきたという考えに納得したよ。声もだんだん大きくしながら読もう。						
僕は、かえるくんが不安でキョロキョロしていたという想像が面白いと思ったよ。その動きを付け足して読もう。	私は、がまくんがだんだんイライラしてきたという考えに納得したよ。声もだんだん大きくしながら読もう。											
4 本時の学習を振り返る。 【自分を信じる力】 【今日のかんまりメーター】	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">表情だけでなく、その時の言い方や動きまで詳しく想像できたよ。</td> <td style="width: 50%;">同じ文でも、友達と自分では違うことを考えていて面白かったよ。</td> </tr> </table> <p>いろいろなレンズで詳しく想像したから、上手に音読できたんだね。</p> <p>音読をレベルアップさせるために次の場面も友達と一緒に想像したいな。</p>				表情だけでなく、その時の言い方や動きまで詳しく想像できたよ。	同じ文でも、友達と自分では違うことを考えていて面白かったよ。						
表情だけでなく、その時の言い方や動きまで詳しく想像できたよ。	同じ文でも、友達と自分では違うことを考えていて面白かったよ。											

評 価	3場面前半の様子に着目し、がまくんとかえるくんの行動を、したこと、表情や口調、様子などについて具体的に想像している。また、考えたこととその理由を友達と交流することで、登場人物の行動について複数の観点で想像したり、一つの観点について多様に想像したりし、音読劇に生かそうとしている。 【方法：発言・様相・記述】
--------	---

働きかけの詳細資料

～見通し～ **学習活動1** 情【かたつむりくんボード】(2～11時間目)

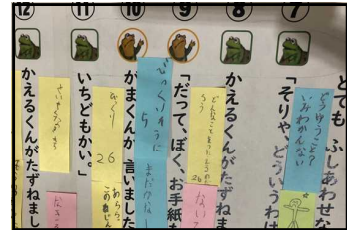
お家の人に1人音読劇を披露するという単元のゴールとそれを達成するために必要な学習の計画を示し、ゴールとその時間とのつながりを示すことで、課題解決の目的を常に意識できるようにする。本時はまず、前時までの学習を確認した後、今までの学習で想像を音読劇に生かしている様子の写真を見せたり、音読劇が上達したと感じている子供の振り返りを紹介したりする。そして、本時の学習課題を確認した後、「どうして、3場面前半を詳しく想像していくのかな」と問うことで、単元のゴールに近付くことや、音読劇を上達させることを意識して本時の学習に向かえるようにする。登場人物の行動を詳しく想像しながら読むことが音読劇の上達につながると感じている姿を、教師がその場で称賛する。また、A児については、事前に学習の流れを示したカードを手元に用意することで、活動内容の見通しをもちやすくし、安心して本時の課題解決に向かえるようにする。



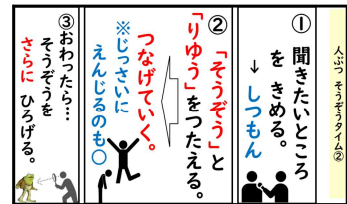
【かたつむりくんボード】

～行 動～ **学習活動2** 粘【人物想像タイム】(3～10時間目) **学習活動3**

登場人物の行動を具体的に想像する際には、観点によって色分けした付箋「人物想像レンズ」を用いる。物語の叙述に対して、人物の表情(赤)・声(青)・動き(緑)・気持ち(黄)の観点で想像したことを短いキーワードで付箋に書く。その際には、イラストで描いたり、言葉では書かずに実際に演じながら説明したりしてもよいことを助言し、書くことが苦手な子供も安心して取り組めるようにする。想像したことを友達と交流する際には、話合いがスムーズに進むよう、話合いの手順や方法をモニターと各班のボードに示し、交流中はいつでも見られるようにする。交流の流れとしては、まず、グループの全員が、本文を拡大したシートの叙述の横に付箋を貼る。次に、貼られた付箋を見て、理由を詳しく聞いてみたい考えに質問し、想像したことを互いに話す、というように行っていく。質問に対しては、場面の様子などを基に、そう考えた理由を説明する。その際には、実際に動きながら伝えてもよいこととし、自分の考えを言葉で説明するのが苦手な子供も安心して交流できるようにする。理由を聞きたい付箋について話し合った後は、取り上げた叙述のまだ想像していない観点について想像していくようにする。また、交流中に新しく広がった想像は、その場で付箋に書き足しても構わないこととし、粘り強く登場人物の具体的な行動について再考していけるようにする。全体交流の後、複数の観点や1つの観点でも多様に想像することが、音読劇の上達につながることを感じている姿を価値付ける。集中力が続きにくいA児には、学習の流れを示したカードを基に、何に取り組めばよいかを一緒に確認する。考えをイラストで描いてもよいことを再度確認したり、言葉で表現させてから書くようにしたりする。また、交流の際にはA児が話しやすい友達を同じグループにし、A児に意見を聞くようにグループの友達に助言しておくことで、交流しやすい環境を作り、安心して活動に参加できるようにする。



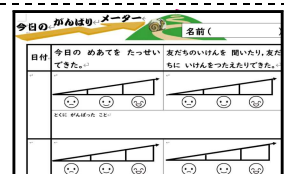
【人物想像レンズ】



【手順表の一部】

～振り返り～ **学習活動4** 信【今日のがんばりメーター】(3～10時間)

「今日めあてを達成できたか」「友達意見を聞いたり、友達に意見を伝えたりできたか」について、自分の頑張りをメーターに色を塗って示し、特に頑張ったことを記述する時間を設ける。どうしてそこまで色を塗ったのか教師が問うことで、課題解決の過程を見つめ、粘り強く想像したことや、友達と協力して取り組んできた姿を称賛する。自分の頑張りを捉えられていない子供については、そう思った理由を尋ね、一生懸命取り組んでいた具体的な姿を伝えたり、「もっとできる」と感じている面を認めたりすることで、次時の学習に意欲的に取り組めるようにする。



【今日のがんばりメーター】

